



輝け！北っ子

平成29年6月30日発行

7月号

発行責任者 紺野 宗作

朝のあいさつ・・・握手・ハイタッチから



「あいさつ」という行為はどんな民族でも見られる共通の行動様式です。心を込めて明るくあいさつができる人になってほしいと思っています。毎朝、校門で子どもたちを握手やハイタッチで出迎えるようにして3か月が経ち、毎日、子どもたちとあいさつを交わす中で、改めて子どもたちから気づかされたことがありました。

- ① いつも明るい声、元気のある声であいさつをしてくれる子どもたちがたくさんいます。そんな時、私の心は、とてもさわやかな気分となり、自然と笑顔になっている自分自身に気づきます。声は心音。明るい声、元気な声のあいさつは、相手の心に伝わると言うことを子どもから改めて気づかされました。
- ② 子どもの中には、毎回、身長の高い私を下から見上げ、あいさつに笑顔をのせてあいさつしてくれる子どももいます。そんなとき、言葉は交わさないもののなんか子どもと心が通じたような気分となります。相手を見てあいさつすることの大切さを気づかされました。
- ③ 校門に立っていると短時間に右や左からと次々と子どもたちは登校してくるので、私自身、子ども一人一人と握手やハイタッチができにくいときもあります。そんなとき人混みが去るのを待って、私に近づき礼儀正しくあいさつをする子どももいます。自分から先に心を開くことで、相手に誠意が伝わることを子どもから学びました。

あいさつは、よい人間関係をつくる第一歩であり、重要なコミュニケーション能力です。自然とあいさつが交わせるようになることは、何にも代えがたい一生の財産となります。朝の子どもたちの様子を見てるとなかなか声のでない子どももいます。あいさつは、心を開く練習。家庭や地域でもあいさつを交わす機会を増やしていきたいものです。

子どもの「自己肯定感」を育むには

1年生のある子どもが「校長先生、見て！見て！飲んでる！飲んでる！」あさがおの水やりしながら、土にしみこんでいく水の様子をこう表現していました。あたかもあさがおが水を飲んでいるように見えたのでしょうか。私は、思わず笑顔になってしまい、「今日は、晴れているからあさがおさんよっぽどのどが渴いていたんだね。」と声をかけました。その子どもはうれしそうにさらに水やりをしていました。感じたままを素直に表現した子どもならではの感性です。

子どもの教育では、子どもたちの豊かな感性（感じる心）を高め、自主的にさまざまな取り組みが積極的におこなわれるようにすることが大事です。そうすることが子どもの「自己肯定感」を高めることにつながり、自信・失敗を恐れなくて「向かう力」を身につけられるようになっていきます。そのため様々な体験の時間は重要です。読書であったり、家事手伝いであったり、家族との団らんであったり、地域でのなかでのふれ合いであったり、社会体験や自然体験であったりと様々な体験が必要です。しかしながら、その体験活動の時間が、ゲーム等のメディアにふれる時間に奪われており、今の子どもたちの成長を大きく阻害していることを感じます。

それでは、体験活動が増えれば、子どもの「自己肯定感」が育まれるのでしょうか？そうではありません。前述の1年生の子ども「飲んでる！飲んでる！」の表現に対して、「それは、飲んでいるではなく、土に水がしみこんでいるだけだよ」と伝えても全くかまわないと思います。大切なのは、大人と子ども、子ども同士などの人間的なふれあいの中で「自己肯定感」は育てられていくということです。体験活動をしただけでは「自己肯定感」は育ちません。家事を通して会話したり、共に作業したりすることを通じた子どもとの会話を大切にしていきたいものです。



7月6日（木）にノーメディア講習会 14：00～

5月に行ったメディアに関するアンケートの結果から、ゲーム等を行う時間がかなり多いことが分かりました。この状況を改善していく必要があります。この度、佐久間内科小児科医院の佐久間秀人先生をお招きし、ゲームが身体に及ぼす影響等について講話いただくことにしました。保護者の方にもぜひ参加いただき、家庭でのゲーム等のルール作りに役立ててほしいと思います。

* 学校の情報は、ホームページをご覧ください！

二本松北小学校ホームページ

